

イスラーム社会の構造



イスラーム前史

セム族部族社会 = ベドウィンの血縁社会・遊牧生活, 空間的平坦性と時間的停滞社会 = 無道時代 (= ジャーヒリーヤ = 同族の義理人情, 異部族との掠奪, 決闘)
ササン朝ペルシャと東ローマ帝国の戦乱
陸路の衰退
6世紀末, 海のシルクロードの発達による商業の発生

ムハンマド(570? ~ 632) の生涯

クライシュ族の名門ハーシム家の出身
幼年に孤児となる
メッカの商人
25歳で雇主・姉さん女房ハディース(40歳)と結婚
40歳の時天使ガブリエル(ジブリール)から啓示を受ける(「ムハンマドよ, そなたは神の使徒, そしてわたしはガブリエルである」)
自殺に失敗
布教開始
多神崇拜のベドウィンと対立
貧民層の支持拡大
富裕層と確執
622年9月20日ヘジュラ(逃亡) = メディナへ
聖戦頻発
連戦連勝
630年メッカ陥落
632年卡アバ神殿参拝
同年死亡

イスラーム教

アブラハム, イサク, ヤコブ, モーゼ, キリスト列伝の中で最後の預言者(ナビー) = ユダヤ教, キリスト教を内部に取り込んでいる.

アブラハムの一神教の世界の根源的, 形而上的純粹理念の宗教である

契約概念(但し主人 = 神と奴隷 = 人間の間で成立する契約関係, 神はこの契約を破らない)

契約条文は神によって一方的にコーランを介して啓示されるもので, 人間の努力による自力救済はありえない.(絶対帰依・他力宗教(cf. 親鸞, カルヴァン思想との類似と相違に注意))

よきムスリムとは神の奴隷である. = アッラーへの信仰によって死後に永遠の救済を保証する.

イスラーム原理

聖俗分離の二元論がない。(cf.ゾロアスター教的環境のもとに成立したシーア派は別) = 「神のものは神へ,カエサルのもはカエサルへ」ではない。=キリスト教のように教会を聖別して扱うことが無い

教会や寺院や僧侶がない。(cf.元は部族信仰(特にクライシュ家)の中心地であったカアバ神殿だけは別格) = ルターやカルバンの宗教革命に類似している。

消費が無い。

戦闘による消費につながり易い。

イスラーム文化の特徴

ムハンマドを始祖として(610年)誕生したイスラーム教

ムハンマドが商人であったことから砂漠の宗教ではなく商人の文化から生まれた宗教である。

当時の時代としては極めて広い世界観が特徴となっている。部族中心社会から絶対神への原理の移行,貧民救済,神の前での平等性

イスラーム哲学

世界は一回の創造ではなく,瞬間毎に新しく神の創造がある。(cf.近代キリスト教的世界観との相違を見よ)

アラブ・アトミズム(世界はばらばらに構成されており,それを統一あるものとするのは日々の神の活動による) = 因果律・輪廻転生の否定(仏教的世界観との相違を見よ) = 神の絶対性

コーラン

ムハンマドが神の啓示を受けて,アラビア語で語られた神の言葉を記録したことによって成立した一冊の書物 = ヘジラを挟んで前後20年間にわたってアラビア語で書かれた(アラビア語以外の言語で書かれたコーランは『コーラン』ではない。cf.選民思想)

622年ヘジラ以前(メッカ期)の半分は終末論(終末の恐れ)

ヘジラ以降(メディナ期)のコーランは政治・行政,統治主義的,現実主義的(感謝の宗教)

『なんといっても信仰者は皆兄弟だ』(49章,10節) = 征服(シリア(636年),オデッサ(639年),エジプト(640年),ペルシャ(641年)など)

サラセン大帝国への道 = 神と人間との縦の関係から被征服民族統治の為の社会性へ・横への拡張

コーランだけでは異文化への対応が効かないため『ハディース』(ムハンマドの言行録を記したいわば随問記)を用いるようになる(スンニ派)

ムハンマドの政治的神格化 毎日が臨在感で満たされなければならない。

聖戦遂行(cf.サダム・フセインの独裁の根源か?)

イスラーム社会

社会構成原理 = 神の前での平等(「啓典の民」,「選民思想」)

「聖戦(ジハード)」の遂行

世界性の獲得

キリスト教世界との軋轢の発生 = 十字軍，オスマントルコの侵略

第一次世界大戦とオスマントルコからの独立

石油資源発見（1908年）

英国による植民地化

第二次世界大戦とヤルタ協定による国境の策定とパレスチナ問題の発生

アメリカメジャーのプレゼンスの増加

貧富の格差の増大

アラブ独立運動（ナセル大統領の指導力）

英米石油資本の国有化

O P E C 結成

石油の戦略化

不協和音の発生

デタントによる米ソのプレゼンスの低下

アラブの不安定化

まとめ

・よきムスリム

日に5回の祈り，

断食の励行，

禁欲の実行，

布施・救貧・相互扶助の慣習，etc. = 五行六信

企業文化は育ちにくい

・聖俗混淆

神の臨在感

俗の否定

私利私欲の否定

立身出世志向が育ちにくい

・契約社会

非契約について無責任化

日本人にとっては異文化的

・派閥

スンニー派 = 『ハディース』に従う派，汎イスラーム主義を主張する．現実的で実利的なのが特徴．東南アジアのイスラームもこの派，

シーア派 = 第4代カリフのアリーの党の意．12代イマーム派が有名．12代イマーム以降イマームは無く，やがて再臨する．それまでムジュタヒド（学者 = ホメイニ師が有名）がイマームと連絡を取りあっているとす．イラン，イラク北部，チフリス河河口付近など全体の10%程度 = イスラーム原理主義，イスラーム信仰共同体（ウンマ）の改造を主張．スンニー派を世俗不信心と難詰する．イ・イ戦争への道．

その他 = シーア派出自のものが多い．
